

RAM (Retinal Acuity Meter)

HE-66



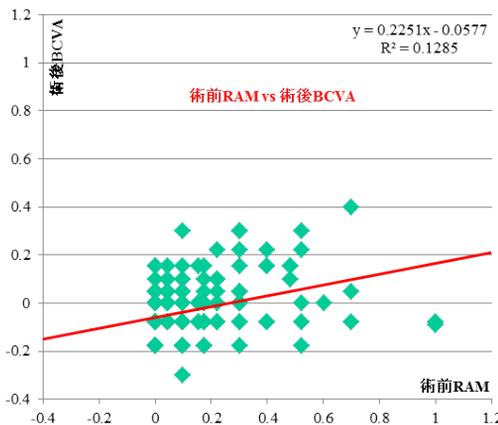
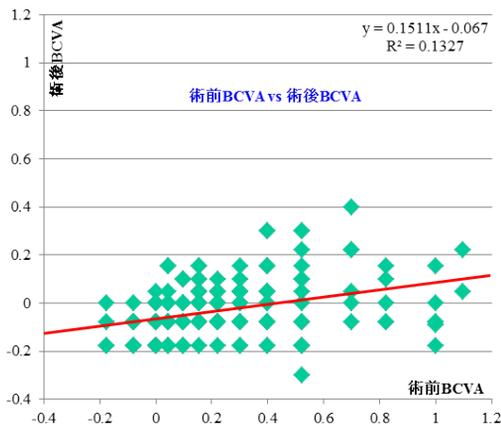
1セット ¥165,000

視覚情報は、涙液・角膜・水晶体・硝子体などの透光体を通り網膜・視神経を通じ視覚野で情報処理されます。患者の視覚情報処理を客観的に判別するには様々な方法が存在しますが、特別な機器を要せず最も広く利用されているのが視力検査です。しかし、OCTや視野検査など他の検査で大きな問題が見つからないにも関わらず、矯正視力が出にくい患者が散見される事があります。そのような場合には白内障や後発白内障などの中間透光体の混濁が疑われ、まずは水晶体再建術やYAGレーザー治療を行うという選択肢を取る事になります。しかし、その際の術前説明としては「矯正視力が出ていないのでどこまで視力が出るかわかりませんが…」という消極的なものにならざるをえないでしょう。また、多焦点IOLなどのプレミアムIOLの登場もあり、術前評価はより重要になってきております。

そこで、ご紹介する**RAM (Retinal Acuity Meter)** は、ピンホール効果とバックライト等により水晶体混濁や眼疾患がある状態でも網膜視力を計測する事が可能な視力装置です。下記の分布図は『南青山アイクリニック(東京都)』と『ちねん眼科(沖縄県)』にて、合計223名の術前RAM視力と通常矯正視力、術後の通常矯正視力を計測した結果です。この調査により、特に術前通常矯正視力の低視力群でもRAMでは高い矯正視力の出ている群が存在し、RAM視力は術後視力により近い値を示す事がわかりました。

RAMは術後の予想視力の目安として有用であり、QOL向上に寄与する多焦点IOLの適応基準としても有用である為、患者・医療者側双方にとってメリットの多い検査法になると思われます。

南青山クリニック 副院長 井手 武



※グラフは対数視力となっております。

HS-2007A / B First Class 用のひじ掛けが完成いたしました。

これにより、硝子体等の長時間の手術や、腕の固定を好まれるドクターにも、快適な座り心地♪を提供いたします。



- HS-2007A 術者専用椅子 ファーストクラス (油圧式) 定価 ¥600,000
- HS-2007B 術者専用椅子 ファーストクラス (ガス式) 定価 ¥450,000

(オプション)

- HS-2007C ファーストクラス用肘掛 定価 ¥70,000
- 横80mm 縦280mm 高さ460mm (支柱部)